

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

研究課題名:『緩和的人工肛門造設術患者における術後合併症発生および予後に関する検討』

研究機関名:東邦大学医療センター大森病院

研究責任者:消化器センター外科

職位・氏名:助教 後藤 麻佑

【はじめに】

がんの腹腔内への進展や転移によっておこる消化管閉塞では、嘔気・嘔吐、腹痛などの苦痛な症状が出現し、食事摂取も困難になります。その症状を緩和する方法の一つとして緩和的人工肛門造設術が選択されることがあります。人工肛門造設手術により消化管閉塞による症状が改善し食事ができるようになる一方で、時に術後重篤な合併症が発生し術前にはみられなかった別の苦痛な症状が出現したり、食事ができないまま亡くなる患者さんもいらっしゃいます。

【研究の目的】

東邦大学医療センター大森病院消化器センター外科では、緩和的人工肛門造設術時の合併症および死亡発生率減少を目指すために本研究を計画しました。この研究の目的は、症状緩和を目的にストーマ造設が必要となった患者さんに対して、術前および術中の患者さんの状態から術後の重篤な合併症や死亡の発生を予見できないかを検討するものです。

この研究で得られる成果は、切除不能な原発のがんや再発がんの患者さんに対しての症状緩和を目的とした人工肛門造設術の術後の重篤な合併症の発生と死亡の回避につながると考えています。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

対象者:2005年1月～2022年12月までに東邦大学医療センター大森病院

消化器センター外科において、切除不能な原発のがんおよび再発がんの理由から緩和的人工肛門造設術を受けた方

方 法: 診療録(カルテ)から抽出したデータを解析 します。

【研究に用いられる試料・情報】

試料:該当せず

情報:患者基本情報(年齢、性別、身長、体重、日常生活の制限の程度、入院期間、術後入院期間など)、既往歴、服薬内容、血液検査結果、手術関連情報(術式、手術時間、術中出血量、術後経口摂取開始日、術後合併症など)、症状の改善の有無、転帰等。

【外部への試料・情報の提供】

該当なし。

【研究組織】

代表施設名: 東邦大学医療センター大森病院 研究代表医師: 後藤 麻佑 役職: 助教

【個人情報について】

研究に利用する情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院 消化器センター外科

職位・氏名 助教 後藤 麻佑

電話 03-3762-4151 内線 6530